

北大リサーチ&ビジネスパーク

世界をリードする「健康科学・医療融合拠点」の形成

参画機関 (太字はプログラム実施機関)

産…北海道科学技術総合振興センター

(ノーステック財団) ほか

学…北海道大学

官…北海道、札幌市、北海道経済産業局、

北海道開発局 ほか

金…日本政策投資銀行

地域イノベーション戦略

北海道の豊富な食素材や、「食」の3次機能である健康機能性、また、これまでに蓄積してきた「健康」「医療」に関する高度・先進的な知識・技術を活用し、人間の総合的な健康の維持・増進・回復を目指す「ヘルスイノベーション」展開の場となる拠点を形成します。素材探索や機能性の評価・分析機能を整備・強化、食の健康機能性を啓発する人材の育成、予防医療に繋げる仕組みの構築、健康関連企業・産業の創出に取り組んでいきます。



プロジェクトディレクター

西岡 純二

略歴：北海道電力総合研究所次長等を経て、平成26年6月ノーステック財団専務理事就任。(現在に至る)

現代人は、心や体に様々な問題を抱えています。ストレスによる精神疾患、ライフスタイル・食生活の変化による慢性疾患、高齢化や医療の進歩など健康に対する意識も大きく変わりました。そこで、北海道の独自性・優位性を最大限活用し、食の生体調節機能に着目した「健康科学と医療の融合」など人間の総合的な健康の維持・増進・回復を目指すヘルスイノベーションを展開します。

事業の内容

【全体計画及び成果】

北海道の強みである「食」を核に、これまで蓄積してきた健康、医療に関する高度・先進的な知識・技術を最大限に活かしていく取組です。この取組は、北海道大学北キャンパスの「北大リサーチ&ビジネスパーク」を中心に展開しています。将来的には研究者・企業・住民が多数集う国際レベルの「健康科学・医療融合拠点」を形成し、健康長寿社会の実現に貢献したいと考えています。これまでに、食の機能性評価体制の強化・充実に取り組み、核内受容体を活用した新たな評価方法の確立など“細胞からヒトまで”の一連の評価を可能とする体制を構築しました。現在、これらを活用した機能性素材の探索や機能性食品開発に取り組んでいます。

ヘルスイノベーション創出のための拠点形成

先進的な研究開発拠点	幅広い応用が期待できる評価拠点
<ul style="list-style-type: none"> 北海道大学病院陽子線治療センター 世界最先端分子診断陽子線治療装置によるガン治療 産総研北海道センター ノーステック財団 グリーンケミカル研究所(GCC) 完全人工環境制御型植物工場による医薬原料生産技術開発 北海道大学 大学院 先端生命科学研究所 五十嵐研究室 世界トップレベルのセラミド研究開発拠点 北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター 創薬ベンチャー企業との連携によるインフルエンザの新規予防法、治療法の開発 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道情報大学 健康情報科学研究センター 食品を中心とした、地域社会に密着したヒト臨床試験(江別モデル)の実施拠点 北海道大学 大学院保健科学研究院 健康イノベーションセンター 高度脳質ラボを拠点とする地域・広域・国際ネットワーク形成及び食による健康機能改善を支援する新規分析技術の開発 旭川医科大学抗酸化機能分析研究センター 食を基本とした新しい地域の予防医療モデルの構築 産総研北海道センター 核内受容体による食品の機能性評価

北海道大学病院 陽子線治療センター

グリーンケミカル研究所 (GCC)

【実施する支援メニュー】

1. 地域イノベーション戦略の中核を担う研究者の集積 (実施機関：北海道大学)
研究者13名を招へいし、研究開発を推進します。
2. 地域イノベーション戦略実現のための人材育成プログラムの開発及び実施 (実施機関：北海道大学、ノーステック財団)
ヘルスイノベーションを担う人材の育成を実施します。
3. 大学等の知のネットワークの構築 (実施機関：ノーステック財団)
地域連携コーディネータ5名を配置し、事業化等の支援を行います。
4. 地域の大学等研究機関での研究設備・機器等の共有化 (実施機関：北海道大学)
道産食素材等の評価・分析のため研究設備・機器等を有効活用し地域の研究開発活動の活性化を目指します。

